

地域愛を原動力に、その思いを地域へ還元する

「国際ソロプチミスト島田」を立ち上げ、30年以上にわたり会員や地域と共に、さまざまな奉仕活動に取り組んできた大塚さん。同団体の活動終了後も、地域の一員としてできることを探し続けています。

【地域への思いが出发点】

「今から31年前、元市長の森昌也さんの提案を受けた知り合いから『ソロプチミストを島田でも作りたい』と相談されました。ソロプチミストとは、ラテン語から作られた言葉で『最善なる姉妹』という意味。女性や子どもたちのために活動する女性の国際的な組織だと、その時初めて知り、『今できる最大限のことをしましょう』という理念に賛同したんです」

静岡市で活動している親団体から話を聞き、支部設立に向けて動き出した大塚さん。近隣の女性事業者などと呼び掛け、昭和61年5月に「国際ソロプチミスト島

田」として認証を受け、会員と共に活動を始めました。

【心をついに、思いを形に】

「国際ソロプチミスト島田では、デパート協賛のチャリティバザーや商店街の協力

への車椅子などの寄贈や独り暮らし高齢者との交流など、さまざまな奉仕事業を行ってきました。「子どもたちの笑顔が見たいから」と、市民病院小児病棟への絵本の寄贈も、10年以上続けてきました。



女性による地域奉仕を広めた団体代表
大塚弘子さん（阪本）

を得て産業まつりに出店するなど、会員が協力して資金を作ってきました。皆さんの役に立つためには、自分たちが働かないと」と、強い思いを込めて語る大塚さん。活動で得た資金を元に、市民病院

「学校や地域の役に立ちたいと考えている市内の高校生も活動も支援してきました。福祉施設でのクリスマス会など、合同での事業を通じて交流も生まれ、楽しいですよ」
同じ志の仲間が集まり行動

すれば、視野が広がり、できる事も増えてくると、大塚さんは笑顔で語ります。

【誰もが誰かを支える力に】

昨年8月、会員数の減少と高齢化から、同団体の活動を終了。最後の事業として、11月に六合地区の放課後児童クラブに、電気カーペットを寄贈しました。

「子どもたちから感謝状をもらったんです。一人一人かわいいコメントが書いてあって、うれしくて、役員全員に写しを配りました。子どもは地域の宝。その成長に自分たちが貢献してきたと思えるから、31年間休むことなく続けて来られたんです。人は文字通り、支え合って生きています。自分さえ良ければなんて気持ちはやめてもらいたい。うれしい事は分かち合い、辛い思いや苦しい事は成長する糧にして、みんなが一歩前進しなければね」

何事にも、自身の最大限で向き合いたいと話す大塚さん。地域全体の優しさを願うその心には、島田への愛があふれています。



六合小と六合東小の放課後児童クラブに電気カーペットを寄贈

Shimadajin File #77

Story 島田人

